

# 薬の伝言板

## ～小児のくすいの使い方～

No.243 2018年2月

丸子中央病院 薬局

当院は昨年12月から新しく小児科の先生が加わり、小児科の診察日が増えました。今回は小児科でよく使われる薬の使い方についてお話します。

### 粉薬

#### ●水・白湯に溶かす

多くの小児用の薬は飲みやすいように甘みや味がついていますので、飲みきれぬ量の水や白湯に溶かし、スプーンやコップに入れて飲ませましょう。

#### ●ペースト状にする

少量の水やぬるま湯で練ってペースト状にし、指で上あごや頬の内側にこすりつけます。そのあと水やぬるま湯を飲ませましょう。

●水に溶かすのは直前にしましょう。時間が経つと苦味が強くなったり、お薬の効果が弱くなったりすることがあります。

●市販のゼリーオブラートをスプーンにのせ、その上に薬、さらに上からはさむようにゼリーをのせて薬を飲ませたあと、水や湯冷ましなどを飲ませるとよいでしょう。

●それでも飲めない時はアイスクリームなど、お子様の好きな食べ物に混ぜて飲ませてもかまいません。混ぜると苦味が増してしまうものや、お薬の効果が落ちてしまう食べ物もあります。

**※薬をミルクや主食に混ぜないで！！**

食べ物の味が変わり、好き嫌いになってしまうことがあるので避けましょう。

**※1歳未満の子にハチミツは厳禁！！**

腸内の成長が未熟なため、「乳児ボツリヌス症」が発生する危険があります。



### シロップ薬

飲ませる前に容器を軽く振って中身を均一に混ぜ、1回分をスポイトや添付のカップに量りとり、飲ませましょう。シロップは甘味の強いものが多いため、お薬を飲んだあとは水などを飲ませてあげてください。

●カップで飲めない場合は、スポイトで頬の内側に流し込むといいでしょう。

**※のどの近くに入れるとせき込みやすいため注意！！**



## 坐薬

冷蔵庫で保管している坐薬は、すぐに使うと冷たくて刺激を感じるため、痛がったり便と一緒に出てきてしまったりすることがあります。使う前に室温に戻しておくか、手で少し温めておき、先のとがったほうから肛門にしっかりと入れます。そのあと立位にさせるか、立て抱きにして5分くらい待つと、坐剤が出てきにくいです。



●坐薬を入れるとき、坐薬の先を水でぬらすか、オリーブ油やサラダ油などをつけると滑りやすくなるため、刺激が弱くなり入りやすくなります。

### ※使う順番に注意！！

2種類の坐薬を使用するときは、入れる順番によって効果が変わることがあります。

## ぬり薬

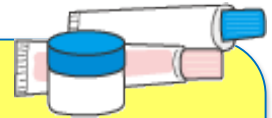
手と患部をきれいに洗いましょう。ぬり薬を手に取り、患部に点在させ、手のひらを使ってぬります。肌を刺激してしまうため、強くすり込むようなぬり方はしないでください。しわに沿ってぬると上手にぬることができます。ぬり終わったら、きれいに手を洗います。



### ●ぬり薬の種類

【軟膏】べたつき感があり、水をはじきます。ぬった所が薄く光って見えるくらいに使用してください。

【クリーム】べたつき感が少なく、水で洗い流せます。のびがよいので軟膏より広い範囲を塗るのに適していますが、刺激があることもあります。白い色が消える程度に使用してください。



## 点眼薬

手を洗いましょう。顔をしっかり真上に向け、点眼薬を持っていないほうの手で下まぶたを軽く引き下げて、容器の先がまつげやまぶたに触れないように点眼します。その後、約1分間目を閉じます。

目のふちや皮膚についた余分な点眼薬をティッシュ等でふき取ってください。



### ※1滴で十分！

1滴を確実に点眼すれば十分な量です。点眼後は目頭を押さえるか眼をつぶることにより、薬剤が涙道へ流れること（口中が苦く感じる）を防げます。眼を廻したり、まばたきをしたりすると涙液と共に流れてしまいます。

